

あの震災から24年…

研究推進部部长 丹生憲一

1月17日、阪神淡路大震災から24年が経ちました。

私は、県立西宮高校で3年生の担任をしていました。その年のセンター試験は14日(土)15日(日)で、当時は15日が成人の日だったため、16日は振替休日でしたが自己採点のための登校日…。その翌日の出来事です。連休に集い、成人式を祝っていた家庭は多かったことでしょう。

Fさんのことを書きます。私たちの学年の生徒で震災の犠牲者は一人だけでした。「なぜこの子を…」と誰もが天を恨みたくなるような良い子で、お兄さんが成人式を迎える年でした。明るくて、勉強もよくできて、放課後はテニスボールを追いかけている活発な女の子です。職員室に、毎日のように担任の先生を訪ねてきては、かわいらしい笑顔をふりまいて帰って行きました。職員室で、彼女のことを知らない先生はいません。進学先も決まっていた。そんな彼女が、あの仁川の土砂崩れの犠牲者になったのです。翌日、自分のクラスの生徒の安否確認が急務となり、私たちのもとに入った情報は、「Fさんの家が土砂崩れに巻き込まれた」というものでした。自衛隊が懸命の土砂撤去作業を続ける中、同級生がバケツや洗面器をスコップ代わりに掘り起こしに加わりました。三日経って、Fさんは眠ったままのきれいな姿で見つかりました。家族5人一緒に…。

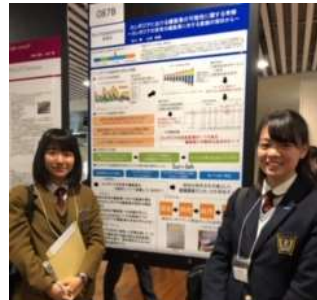
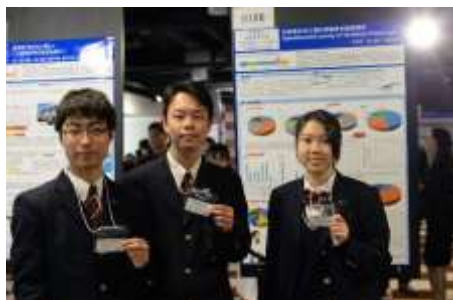
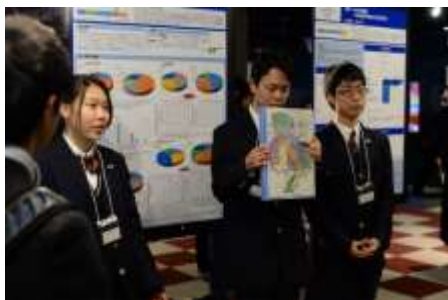
彼女のお父さんは東京に単身赴任だったはず…。もしも、前日に帰っていたら一人東京に残されていたことでしょう。

「二十歳になるお兄ちゃんを困んだ、久しぶりの家族団らん…。帰りを延ばしたんやろうね…」涙にぐれながら、私たち担任はしみじみと語り合いました。卒業アルバムの彼女は、とびきりの笑顔です。卒業式予行の日、集まった生徒たちを前に「Fさんがここにいないのが悔しい！」と言って号泣した学年主任の先生の涙を、忘れることができません。

私は毎年、この日の授業では震災の時の話をします。今年と一緒に教えている若い先生が、まだ生まれていなかったということを知って年月の流れを感じました。生徒の皆さんはもちろんですが、教壇に立つ若い人も「震災後」世代になりつつあります。それだけに、ことあるごとに語り継いで風化させたくないと感じるのです。

トビタツタ探究Ⅱ 「甲南大学リサーチフェスタ」

昨年12月23日に甲南大学で行われた「リサーチフェスタ」に、探究Ⅱで「丹波電化石工房への来訪者の実態調査」を進めている山内涼也君、村上友祐君、宮本萌さんが参加しました。年一回開催される丹波電フェスタに来訪するリピーターの数が年々増えているにも関わらず、丹波電の認知度は低いという事実から、新規来訪者増加のためにTwitterを利用し、その効果を考察するという内容です。200枚ほどのポスターが天井から吊り下げられ、生徒(学生)たちはA~Cの3グループに分けられ、30分の発表時間(時間内に数回の発表も可)で見たい発表を自由に聞きに行くことができます。3人は最初、緊張した面持ちで、声も後ろまで通らない時がありましたが、回を重ねるごとに慣れてきて、最後は笑顔で質疑応答できるまで成長しました。他校の発表の中には、私たちがカンボジア研修に行く1週間前に、同じパンナサストラ大学を訪れていた岡山学芸館高校も来ていました。「カンボジアにおける縫製業の可能性に関する考察」と題して、現地のアパレルメーカーと商品開発に携わる中で、若者の就労意識と、縫製業の振興を考えるという内容でした。校外に出て得られる、こういう出会いもうれしいものです。



1月11日（金）第1学年総合 第18回 鴻谷佳彦さん 講演会

1学年の総合の時間には、鴻谷佳彦さんに「人生を大きく変えた修行時代～続けることが大事～」というタイトルで講演していただきました。本校の48回生です。自分が高校1年生に戻れたら「これだけはやっておいたほうが良い」と伝えたいこと…として、「仕事や生活をする姿勢」「仕事を続けることの大切さ」「学校の勉強の大切さ」「採用する際に面接で気を付けていること」「勉強、仕事を続けるコツ」という流れでお話を聞きました。

「仕事や生活をする姿勢」

「職場は習うところではない」というお話は、学校での授業にも通ずることだったかもしれません。「仕事を任される人、信頼される人は姿勢が違う。人の見ていないところでも、肩になるような材料で包丁の使い方を練習したり、先輩の技を見習って家で練習したりして、自分ではどうしてもわからないことを職場で尋ねる。そういう姿勢が、『頑張っているな』という評価にもつながり、やがて、仕事を任されるようになる」という内容でした。自分の学校生活に置き換えてみると、どうなるでしょうか？

「続けることの大切さ」

「S字曲線」を覚えていますか。「これだけ勉強しているのに伸びない」とあきらめる人は、「何事にもスランプはある。思い描く理想の自分の力の伸びを、右肩上がりの直線で描きがちだ。現実には、最初は伸びるがある時点で横ばいか低下することもある。ここでやめずに続けると、いずれ伸びるときが来るのでそれを信じて続けることが大切だ」ということです。2年生や3年生にも聞いてもらいたい話でした。

「学校の勉強の大切さ」

「学校の勉強で無駄なものは何一つない」「仕事で一番大切なのは体力」というお話は、勉強以外の活動に一生懸命取り組んでいる皆さんには励みになったのではないかと思います。「仕事に必要なチームワークは、部活動で自然に身に付けることができる」「家に帰って勉強しようと思っても、疲れて寝てしまうようでは伸びない。時には寝ずに仕事をしなければならないこともあるから、一番大切なのは体力だ」ということです。

「面接で気を付けていること」

当たり前のことでしょうけど、「姿勢が良い」「履物をそろえられる」「きちんとした挨拶ができる」「コミュニケーションが取れる」「集合の5分前には来ている」ということを、力説されていました。最初に話された「姿勢」にすべて通じることですが、一生懸命取り組む姿勢というのは、テストの点数、試合の勝ち負けといった結果だけでなく、普段の生活に現れるのでしょうか。

「続けるためのコツ」

「ベーシックミスティクに対処すること」つまり、自分ではできない、みんながそう思っている、これができないから自分はダメ…といった思い込みをせず、前向きに物事を考えることが大切ということです。自分のできないことは、客観的に事実を書き出してみ、「なぜ、そうなったのか？」を冷静に考えてみる。そこから「次はこうしてみよう！」ダメ出しの代わりに「ヨイ出し」、減点ではなく「加点主義」、結果でなく「プロセス主義」、そして「失敗を受け入れて、共に痛み、共に耐える」ことができれば自分に勇気を与えることができる…ということでした。

最近「無鹿リゾート」をオープン、NPO「imagine 丹波」も立ち上げて幅広く活躍されている鴻谷さんは、「料理を極めたいという想いで仕事を始めたが、今、毎日の仕事の中で包丁を握っている時間は何十分の一でしかない。数学が苦手だと捨てていると、経理もできない。国語ができないと、場の空気も読めなくなる。とにかく、何でもあきらめたり捨てたりせずに、続ける姿勢を。」とメッセージをくださいました。

来週からは、自分がどんな生き方をしていくかについて考えていきます。

